

## 2025年度 卒業生答辞 霜山夏実

吹く風にも春の爽やかさが漂い、柔らかな日差しに心躍る季節となりました。

私たち卒業生一同は、今日この日をもちまして、神奈川大学を卒業します。

学生生活を締めくくる門出の日に、このような素晴らしい式を設けてくださり、心より感謝申し上げます。また、ご多忙の中ご列席いただきました先生方やご来賓の皆様には、卒業生を代表し厚く御礼申し上げます。

思い起こせば4年前、社会が新しい生活様式へと移り変わる中、私たちは不安と期待を胸にこの神奈川大学に入学しました。対面授業とオンライン授業が交錯する日々は戸惑いもありましたが、大学関係者の皆様や先生方のご尽力と温かなサポートのおかげで、私たちは安心して学びに向き合うことができました。対面の機会が増えるにつれ、教室で交わす何気ない会話や共に学ぶ時間が積み重なり、友人とのつながりが広がっていきました。互いに支え合う存在ができたことは、新たな学生生活を歩むうえで大きな力となりました。

2年次にはゼミナールが始まり、専門的な学修が動き出しました。講義とゼミナールの両方に取り組む日々は、「大学生として学んでいる」という実感を与えてくれました。他のゼミ生と協力しながら、現代ポートフォリオ理論をはじめとする金融工学の内容に挑む毎日は、知識が乏しい状態からのスタートで大変なことも多くありました。それでも、課題に取り組むためにゼミの仲間と集まり、意見を交わし合い、互いに支え合った時間は、今では良い思い出となっています。

3年次からは、それまでに身につけた知識を土台に、自分自身の研究へと本格的に取り組み始めました。資料作成や情報収集に加え、パソコンを使ってデータを整理し、計算を行い、試行錯誤しながら独自の分析シートを作り上げていく作業は、想像以上に時間と労力を要するものでした。思うように結果が出ず立ち止まることもありましたが、ゼミの仲間や先生と議論を重ねることで新たな視点が生まれ、研究は少しずつ深まっていきました。そうした対話と実践の積み重ねの中で、自分なりの問いを見つけ、研究の方向性を形づくることのできたことは、大きな成長につながったと実感しています。

4年次には、就職活動と卒業論文に追われる忙しい日々が続きました。将来について真剣に向き合えば向き合うほど悩みも増え、心が疲れることもありましたが、その時間は「自分を知る」ことにつながる貴重な経験となりました。ひとりでは乗り越えられなかった場面も多くありましたが、先生方の励ましや先輩方の助言、仲間の存在、そして家族の存在は、私の心を支えてくれる大きな力となりました。

振り返れば、変容した社会の中で学生生活を送ってきた私たちは、日々の暮らしがどれほど多くの人の支えによって成り立っているのかを、身をもって知ることができました。だからこそ、当たり前だと思っていた日常の尊さを忘れず、誰かの力になれる存在でありたいと強く感じています。

4月から私たちは、それぞれの道を歩み出します。社会へ踏み出す者、学びをさらに深める者など、各々の進む道は異なりますが、神奈川大学で培った学びと経験、そして多くの方々に支えていただいた時間を胸に、社会に貢献できるよう活躍してまいります。

最後になりますが、私たちがこうして学生生活を無事に送り、今日この日を迎えられるのは、日々支えてくださった多くの方々のお力添えのおかげです。私たちを指導くださった先生方、陰から支えてくださった職員の皆様、ご多忙の折にご列席くださいました皆様、そして絶えず私たちを支え続けてくださった保護者の皆様に、卒業生を代表して改めて御礼申し上げます。4年間私たちを温かく見守って下さり、本当にありがとうございました。

以上、皆様方のご健康と神奈川大学の一層の発展を願い、答辞とさせていただきます。

2026年3月23日

卒業生代表

経済学部 経済学科 霜山夏実